

卒後ワークライフバランスについて考える会（J-PASS）
2024 報告書



2024
自治医科大学

地域医療推進課では、卒業後の勤務に係る様々なこと（育児支援も含む）の連絡調整業務を行っています。各都道府県での勤務状況などを把握しているからこそアドバイスできることもあるかと思います。みなさんが少しでも笑顔が多い日々を送られますよう、微力ながら協力させていただきますので、遠慮なくご連絡ください。

地域医療推進課卒後指導係

TEL : 0285-58-7055 FAX : 0285-44-6274 E-mail : chisui@jichi.ac.jp

地域医療推進課女性医師支援ホームページ

https://www.jichi.ac.jp/chisuika/s_shien_jis.htm

女性医師支援ブログ

https://www.jichi.ac.jp/chisuika/jichi_womensupport/blogsummary.html



目 次

● Contents ●

I. はじめに.....	2
II. 卒後ワークライフバランスについて考える会2024 in Jichi	3
1. 開催概要.....	4
2. 次第.....	5
3. 開催内容.....	7
4. アンケート結果報告.....	17
III. 卒後ワークライフバランスについて考える会	
J-PASSブロック担当会議	21
1. 開催概要.....	22
2. 次第.....	23
3. 開催内容.....	24
IV. 学生懇談会.....	34
1. 開催概要.....	35
2. 開催内容.....	36
V. きけたらいいな！先輩のこえプロジェクト	
～きかせてほしい後輩のこえ～	37
1. 開催概要.....	38

I. はじめに



卒後指導委員長
小児科学講座 小児医学部門
教授 小坂 仁

卒後指導委員会では、学生および卒業生に占める女性の増加に伴い、結婚・出産・育児の負担が医師としての負担に上乗せされることも多いことから、仕事と家庭の両立が叶うよう勤務の継続に対する支援を平成 20 年度から実施してきました。

「卒後ワークライフバランスについて考える会」は、学生のうちから自身の将来について考える機会となるように、卒業生と在学生の交流の場として設けております。近年は新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、Web 会議システム Zoom を用いて開催しておりましたが、今年度は 5 年ぶりとなる医学部学生寮での現地開催としました。「ライフステージと”my choice”」をテーマとし、会の前半では講演者の卒業生 2 名からご自身の経験を基に、ライフステージごとのワークとライフのバランスや、どのように進む道を選択したか、また、医師夫婦においてお互いのキャリアを尊重するために重要なことなどについてご講演いただきました。会の後半では小グループに分かれて、チューターの卒業生を交えた意見交換が行われ、学生にとって卒後の働き方や生活をより具体的にイメージできる機会となりました。会を開催するにあたり、医学部同窓会から協賛があり、参加者全員にお菓子の詰め合わせと大学書房の自治医大プリン の差し入れをいただきました。この場をお借りして、深く御礼申し上げます。

「卒後ワークライフバランスについて考える会 J-PASS ブロック担当会議」は、全国の地域において中心的な役割を担う卒業生をブロック担当として招聘し、今後の支援活動について有意義な意見交換・情報共有を行う場として位置づけております。例年、夏に東京で開催しており、今年度は昨年度に引き続き、2 度目となるハイブリッド形式で開催いたしました。会の後半では、「地域での支援を深めるために必要なことは？～支援の浸透を目指して～」をテーマに、地域で活躍する卒業生の視点からのご提案をいただき、今後のより良い支援を検討するために、活発な情報交換ができました。

今後、卒後指導委員会においても、広い視野を持って支援を継続していきたいと思っております。ここに、卒後ワークライフバランスについて考える会 2024 の報告書を作成いたしましたのでご参考にしていただければ幸甚です。

最後に、ご多用の中ご参加いただきました卒業生に心より感謝申し上げます。

Ⅱ. 卒後ワークライフバランスについて考える会 in Jichi

1. 開催概要

概 要	「卒後ワークライフバランスについて考える会 2024 in Jichi」 前半：卒業生による講演 後半：卒業生と在学生の意見交換
目 的	女子学生の増加に伴い、卒業後の義務年限の履行と結婚・出産・育児との両立が今後の課題となることが避けられない状況の下、学生に在学中からキャリアの面について卒後のワークライフバランスをイメージしてもらう機会を設けるとともに、より多くの卒業生と顔見知りになってもらう。
開 催 日	令和6年6月15日（土）
開催方法	現地開催（会場：自治医科大学医学部学生寮 大ラウンジ）
参 加 者	73名（学生42名、卒業生19名、関係者12名）
主 催	卒後指導委員会（地域医療推進課）
協 賛	医学部同窓会（医燈会）
協 力 者	石川 鎮清（卒後指導委員会女性医師支援担当） 石川由紀子（卒後指導委員会女性医師支援担当） 小島 華林（卒後指導委員会女性医師支援担当） 白石 裕子（卒後指導委員会女性医師支援担当） 山本さやか（卒後指導委員会女性医師支援担当） 中村香代子（卒後指導委員会女性医師支援担当） 医学部学生

2. 次第

テ ー マ：ライフステージと”my choice”

司会進行：地域医療推進課長

時間	内容	備考
10：30～11：00	受付	
11：00～11：05	開会挨拶（5分）	小坂 仁 卒後指導委員長
11：05～11：10	医学部同窓会長挨拶（5分）	永井 慎昌 会長 （鹿児島県9期卒業） 鹿児島赤十字病院
11：10～11：15	卒後指導関係者紹介（5分）	
11：15～11：25	J-PASS について（10分）	女性医師支援担当 中村 香代子 医師
11：25～11：45	講演①（20分）	叶城 倫子 医師 （岩手県28期卒業） 岩手県立磐井病院
11：45～11：55	質疑応答（10分）	司会：女性医師支援担当 松原 優里 医師
11：55～12：15	講演②（20分）	藤里 秀史 医師 （千葉県39期卒業） 鋸南町国保鋸南病院
12：15～12：25	質疑応答（10分）	司会：女性医師支援担当 松原 優里 医師
12：25～12：30	写真撮影（5分）	
12：30～13：20	休憩（50分）	
13：20～13：25	意見交換 趣旨説明（5分）	司会：女性医師支援担当 小島 華林 医師
13：25～13：55	グループディスカッション （30分）	参加卒業生・教員 講演者（2名） チューター（9名）
13：55～14：15	コメント発表（20分）	学内教員（8名） 参加者（2名）
14：15～14：20	閉会挨拶（5分）	野田 泰子 卒後指導部長事務取扱
14：20～	アンケート記入・回収 同窓会からプレゼント	

卒後ワークライフバランスについて 考える会2024 in Jichi

ライフステージと” my choice ”

日時：令和6年 **6月15日** (土)
11:00～14:30

対象：医学部学生、卒業生、教職員
男女問いません!!!

会場：医学部学生寮 大ラウンジ **4年ぶりの
現地開催!**

★**学生限定**★
参加者に
お弁当を配付!
同窓会から
プレゼントも
あります!



◆ 講演会



講演①

叶城 倫子 先生
(岩手県28期)

平成17年3月卒業。
卒後20年目。

平成26年7月に義務年限終了。
岩手県において、女性医師が子育てをしながら
勤務の継続が可能な勤務環境づくりに尽力。
現在は岩手県立磐井病院 麻酔科で勤務。



講演②

藤里 秀史 先生
(千葉県39期)

平成28年3月卒業。
卒後9年目。

茨城県出身の同級生と結婚協定を締結。
千葉県と茨城県で義務年限を履行中。
今年度が義務年限最終年度。
現在は鋸南町国保鋸南病院 内科・小児科で勤務。

◆ 意見交換会

チューター卒業生

牧野 伸子 先生 (大阪府10期)
十枝めぐみ 先生 (香川県13期)
新井 由季 先生 (栃木県25期)
松原 優里 先生 (京都府28期)
菅谷 涼 先生 (栃木県37期)
増田 卓哉 先生 (栃木県38期)
鈴木 貴道 先生 (三重県42期)
町永 幹月 先生 (茨城県42期)
福岡なつみ 先生 (宮城県42期)

申込方法

↓QRコードからご応募ください↓



申込締切 5月31日(金)
※先着60名となります。

主催 卒後指導委員会
協力 石川 鎮清 石川 由紀子 白石 裕子
小島 華林 山本 さやか 中村 香代子
協賛 医燈会 (医学部同窓会)

事務局：地域医療推進課
tel：0285-58-7055
e-mail：chisui@jichi.ac.jp

3. 開催内容

6月15日（土）、「ライフステージと”my choice”」をテーマに「卒後ワークライフバランスについて考える会 2024 in Jichi」を開催しました。平成24年度から開催している本会も、今回で14回目の開催となりました。近年は新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、Web 会議システム Zoom を用いて開催しておりましたが、今年度は5年ぶりとなる医学部学生寮での現地開催としました。当日は73名（学生42名、卒業生19名、関係者12名）にご参加いただきました。

前半 講演会

会の前半では、卒業生2名からご講演をいただきました。はじめに叶城倫子先生（岩手県28期）にお話しいただき、次に藤里秀史先生（千葉県39期）にご講演いただきました。

叶城先生は、これまでのワークとライフで出来事が起きた際に様々な選択肢から「選ぶ」とは何かについて、また、叶城先生が中心となって発足された「岩手 joy サポートプロジェクト（旧名称）」の活動と次のステップについてお話しくださいました。藤里先生からは、ご自身の経験を基に、ライフステージごとのワークとライフのバランスや、医師夫婦におけるお互いのキャリアを尊重するために重要なことなどをお話しいただきました。

両先生のご講演に、参加者は熱心に耳を傾けておりました。



講演① 「『選ばない生き方』を選ぶ」
叶城 倫子（岩手県28期生）
岩手県立磐井病院 麻酔科



講演② 「ライフステージと”my choice”」
藤里 秀史（千葉県39期生）
鋸南町国保鋸南病院 内科・小児科

後半 意見交換

後半の意見交換では小グループに分かれ、学生と卒業生、また参加教員とでディスカッションを行いました。テーマを「想像しよう！多様な“choice”」として、「前半の講演を聞いてどのようなことを感じ、考えたかをお話する機会としました。

チューターとして、牧野伸子先生（大阪府 10 期）、十枝めぐみ先生（香川県 13 期）、新井由季先生（栃木県 25 期）、松原優里先生（京都府 28 期）、菅谷涼先生（栃木県 37 期）、増田卓哉先生（栃木県 38 期）、鈴木貴道先生（三重県 42 期）、町永幹月先生（茨城県 42 期）、福岡なつみ先生（宮城県 42 期）の 9 名の卒業生をお招きし、それぞれの立場からお話いただきました。

テーマ：「想像しよう！多様な“choice”」

司 会：小島 華林 医師（女性医師支援担当）

チューター：牧野 伸子 医師（大阪府 10 期卒業）

十枝めぐみ 医師（香川県 13 期卒業）

新井 由季 医師（栃木県 25 期卒業）

松原 優里 医師（京都府 28 期卒業）

菅谷 涼 医師（栃木県 37 期卒業）

増田 卓哉 医師（栃木県 38 期卒業）

鈴木 貴道 医師（三重県 42 期卒業）

町永 幹月 医師（茨城県 42 期卒業）

福岡なつみ 医師（宮城県 42 期卒業）



学生コメント

夫がキャリアを大事にしたいのと同時に、妻もキャリアを大事にしたい思いがあり、お互いに納得のいく妥協点を見つけなければならないと学んだ。ボランティアや本日のような講演会など色々なことに積極的に参加して、情報を入れて、選択肢を増やす努力が大事だと感じた。

学生コメント

ライフプラン通りの人生にはなくても、悪いことではなく、それがきっかけで得られるものがあるということが印象に残った。自治医大は特殊な環境下なので、人との縁を大切にしていけたらと感じた。

学生コメント

たくさんのお話を聞いて、上手くいっていること、上手くいっていないこと、先生方が現在抱えている悩みを聞くことができ、自分の抱えている悩みは、方向は間違っていないと実感できた。少し未来が明るくなった気がする。心が晴れた。

学生コメント

今の学生の身分ではまだ想像がつきにくい、自分にとっての「キャリア、仕事」の存在が自分の「ライフ」に与える価値の大きさを少し感じられた。自治医大の縦横のつながりを大切にしたい。

学生コメント

先行きの見えない将来のことだが、自分のやりたいこと、譲れないことを考えて、人生の選択をできるようになりたいと思った。

卒業生コメント

学生のリアルな悩みや、卒業生の先生の素晴らしい活動、考え方を聞いて良かった。様々な先生方のワークライフバランスについて取り上げてほしいと思った。

昼食および会終了後

前半終了後の休憩時にはお弁当を配布し、学生、卒業生、関係者で昼食をとりました。また本会は、医学部同窓会（医燈会）に協賛をいただいております、参加した学生全員にお菓子の詰め合わせと自治医大プリンの差し入れをいただきました。この場をお借りして、深く御礼申し上げます。



講演①

2024/6/15 Sat
卒業ワークライフバランスについて考える会2024 in Jichi
「ライフチョイスとmy choice」

『選ばない生き方』を選ぶ

岩手県立磐井病院 麻酔科
叶城倫子（旧姓：阿部、岩手28期）

自己紹介

- ・岩手県一関市出身・在住
- ・高校時代は陸上部
- ・医師を志した理由はスポーツドクターへの憧れ
- ・運よく28期生として自治医科大学医学部に入学
- ・現在は麻酔科医と3児の母業を兼務



学生時代

- ・素晴らしい先生・先輩・友人・後輩に恵まれた幸せな時間
- ・やりたいことを全部やった、充実の日々
 - 空手道部
 - JFC
 - 薬師祭実行委員会
- ・「6年で卒業すること」が学習面での目標。

就職後

- ・2005.4月 岩手県立磐井病院（一関市） 初期臨床研修医
- ・2007.4月 岩手県立中央病院（盛岡市） 麻酔科
- ・2009.4月 国保普代村診療所 所長（県人会6年ぶりの一人診療所）
- ・2011.4月 岩手県立久慈病院 麻酔科
- ・2011.5月 岩手県立磐井病院 麻酔科

麻酔科専攻医・専門医機構専門医・学会認定指導医
所属医局なし・学位なし




「安心、安全、安眠」の医療を地域の皆様に

傷ついた言葉

救われた言葉

人生の方向性 何を基準にしたか

- ・優先順位は自分で決める・大切なものを譲らない
- ・救ってくれた人になりたい
- ・自分を知らない・直接は聞かない人の言葉を気にしない
- ・理由もきっかけもなんでもいい、今があることが大事
- ・できるだけ人の役に立つ・必要とされていることをする

一つに絞らない『選ばない生き方』を選択

医師として

- ・2014年 第2子産休中に義務明け・専門医試験合格
義務終了後も常勤医として勤務継続
- ・2020年 診療科長を拝命
- ・COVID-19、GradeA帝王切開等の手術室対応の整備
- ・術後疼痛管理チーム立ち上げ、運営
- ・各種学会発表、シンポジウム参加
- ・研修医・救急救命士教育
- ・日本スポーツ協会認定スポーツドクター取得
- ・岩手県体育協会 スポーツ医・科学委員 拝命
- ・日本医師会認定産業医

親として

- ・院内保育所顧問
運営会議参加、健康診断、保育所内感染症対策 等
- ・医局内育児支援担当係
地域内保育施設情報誌制作・院内配布、相談対応 等
- ・PTA役員各種：院内保育所、幼稚園、小学校（学年・民区）

岩手県との 関わり

- ・県立病院医師連主催『**県知事と県立病院勤務医師の懇談会**』
現状や問題を直接県知事にプレゼンテーションできる機会
- ・2013年 岩手県立中央病院 梅島明子医師の提言により、
育児短時間勤務制度の使用パターンの自由度が増加
- ・2015年2月 院内推薦を受けて参加
育児中の医師支援→離職防止、医師不足解消につながる提案

知事「やりましょう！」

プロジェクト の立ち上げ



- ・2015年8月 女性活躍推進法発令
- ・2015年12月 **ママドクター制度（旧名称）開始**
（育児短時間勤務制度利用前提での正規採用）
- ・2016年6月 県知事の「イクボス宣言」
- ・2016年 女性医師支援のための総合的な施策
「岩手Joyサポートプロジェクト」（旧名称）開始
 - ・仕事と育児の両立支援
 - ・再就業機会の創出支援
 - ・女性医師全体のキャリア形成支援

プロジェクト の発展

- 《支援制度の充実》
- ・2016年 育児中の学会参加・e-learning費用の補助
- ・2017年 就学後の児童へのサポート開始
 - ・院内保育所を利用した学童保育の実施
 - ・塾や学校から保育所への送迎タクシー費用補助など
- ・2017年 介護休暇制度、介護時間制度の新設
- ・2020年 中央病院（盛岡市）での病児保育開始
- ・2021年 中野病院（北上市）での病児保育開始
- ・2022年 育児短時間勤務制度利用を小学校3年→6年末まで延長
子等の看護休暇取得期間を15歳→22歳まで延長
- 《院内設備の改善》
- ・県立の中核病院すべてに院内保育所を設置
- ・院内に女性医師専用の休憩室・当直室を改装・新設

プロジェクト との関わり



- ・県の意見調査への協力、知事との懇談会への参加（計4回）
- ・制度利用者へのアンケートの実施
- ・パンフレット制作・広報活動への協力
- ・学生対象セミナーへの参加
- ・2022年 各県立病院医師とチーム発足、リーダー拝命
意見交換会の運営、チーム会議の総括
2022年9月6日 医政局長へ提言
2023年 論文執筆

ゴールと限界 次の ステップへ

- ・満足度が高く、県内全域で活用、医師確保に一定の成果
- 育児中の女性医師のみが優遇されているという誤認**
育児は女性がするもの、という固定観念を助長
- ・男性の育児参加、働き方改革の時代との整合性を図り
継続するために**プロジェクトの改変が必要**
- 2024年 **「医師の子育て支援プロジェクト（仮）」開始**
医師の**育児支援に特化したプロジェクト**として独立
- ・男女問わず、様々な属性のメンバーでチームを構成
- ・原則として卒業15年以内の先生方へ世代交代

空手道との 関わり



- ・全空連公認 三段(段位移行中)
- ・日本空手協会 四段
審判等、各種資格取得
- ・大会では選手・監督・審判・教護を兼務
- ・空手道部OB会活動への協力：OB会メーリングリスト管理、
創部50周年記念誌編纂(2022)・50周年祝賀会幹事(2023)



自治医大との 関わり

- ・28期 学年同窓会（卒後8回、オンライン含む）幹事
学年ML・グループLINE 運営管理
メルマガ連載投稿（通算約500号）



- ・2022年 へき地・地域医療学会 シンポジスト参加
- ・2024年 同窓会能登半島地震支援プロジェクト参加

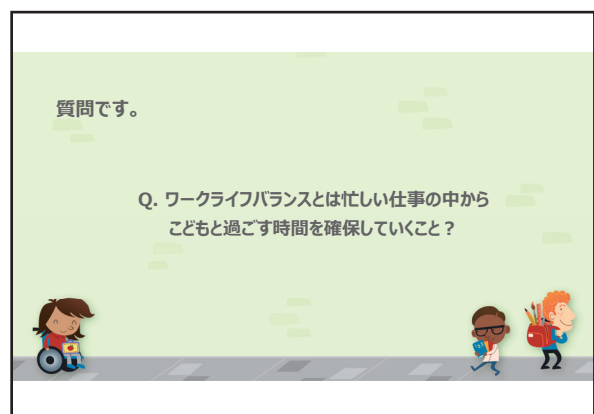
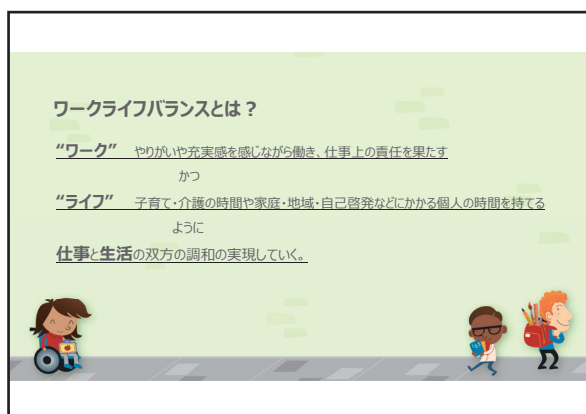
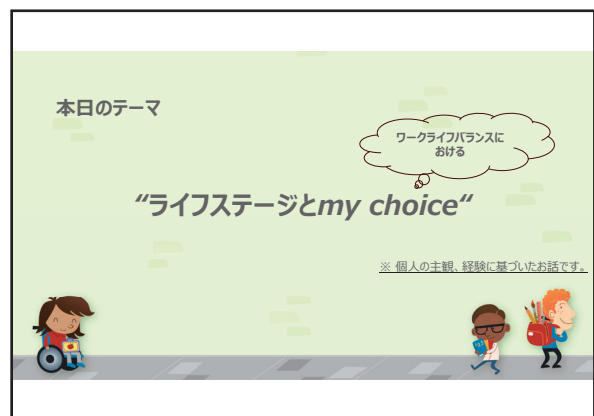
今考えること 自己分析

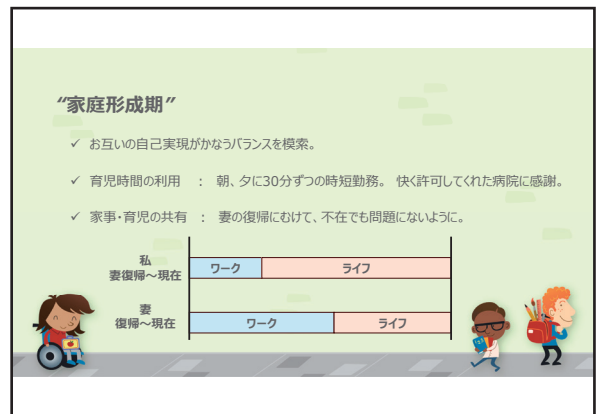
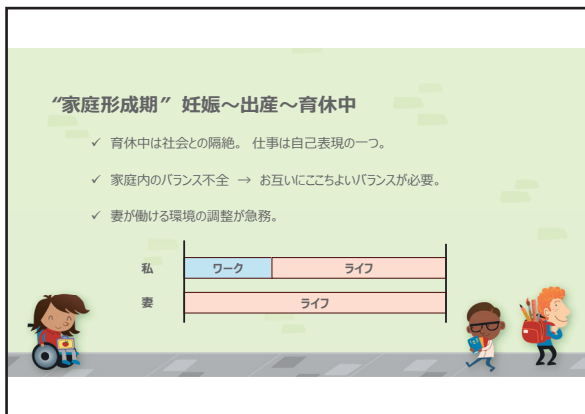
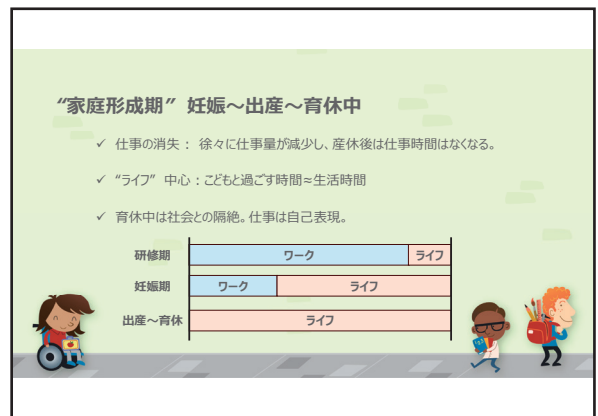
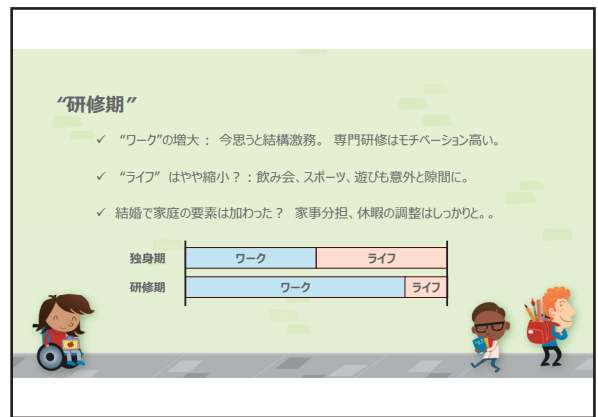
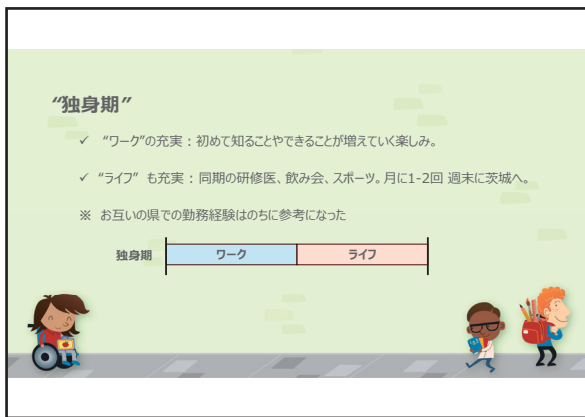
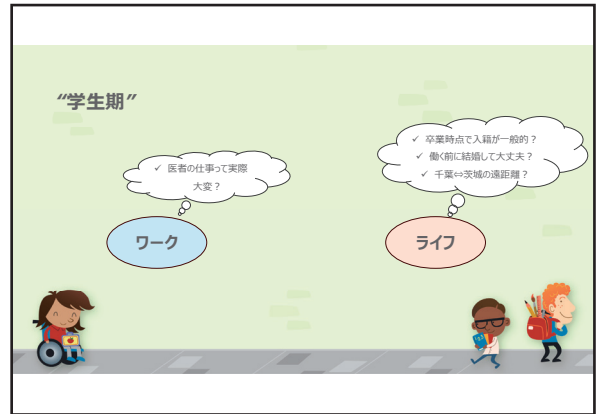
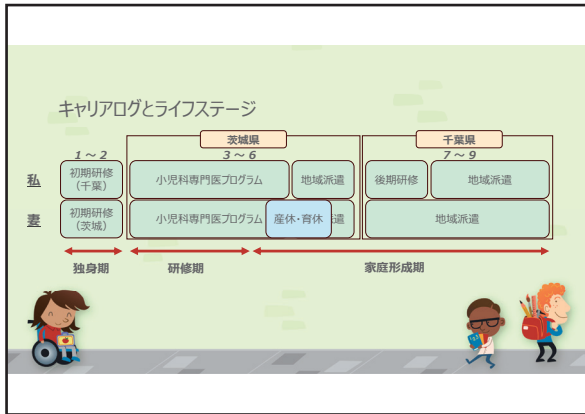
- ・何か1つに絞れない性格、広げられるだけ手を広げる
- ・頼まれると断れない
- ・全て完璧にはできない、飛び抜けた才能もない
- ・いつも周り（恩師・友達・仲間）に恵まれている
- ・細かいことは気にしない（典型的なO型人間）
- ・地道に続けることしかできない
- ・自分にとって大切なこと・好きなことは変わらない
- ・今は**人生の伏線回収**をしているような日々

「選ぶ」とは

- ・誰も、全てを選ぶことはできない
- ・「選ぶ」とは、選べない方を手放すこと
- ・誰のせいにも出来ない結果を受け入れること
- ・明確なビジョンがあるならきつと幸せで楽しい
- ・意志が弱いと怖くて不安、選ぶこと自体に躊躇することも
- ・いずれは進みたい方・好きな方に向かう
- ・意識的にも無意識にも、それが「選ぶ」ということ

講演②





さっきの質問。

Q. ワークライフバランスとは忙しい仕事の中から
こどもと過ごす時間を確保していくこと？

A. こどもと過ごす時間の確保も重要。
同じくらい仕事の時間の確保も大事。



ワークライフバランスとは？

“ワーク” やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たす

“ラ” かつ

自分の価値観（やりたいこと）に沿った
選択できる余裕を持つこと。

仕事と生活の双方の調和の実現していく。



“今後の課題”

- ✓ 義務後のセカンドキャリア：お互いのサブスベ研修どうするか？
- ✓ さらなるライフステージの変化：次の妊娠出産？ 娘のライフステージに伴う生活の変化？

自分も妻も自己実現できて、
子供との時間も確保できるバランスを保てるような選択をしていきたい。



さいごに

- ✓ 人生は選択の連続。その時々選択はその時の最善の選択だと思います。
- ✓ 自分に正直にやりたいことに取り組んでください。
- ✓ 何か悩み事、ご質問あれば気軽に聞いてください。



卒後ワークライフバランスについて考える会2024 in Jichi アンケート集計結果

○アンケート結果報告

出席者総数（※途中の入退室は不明）

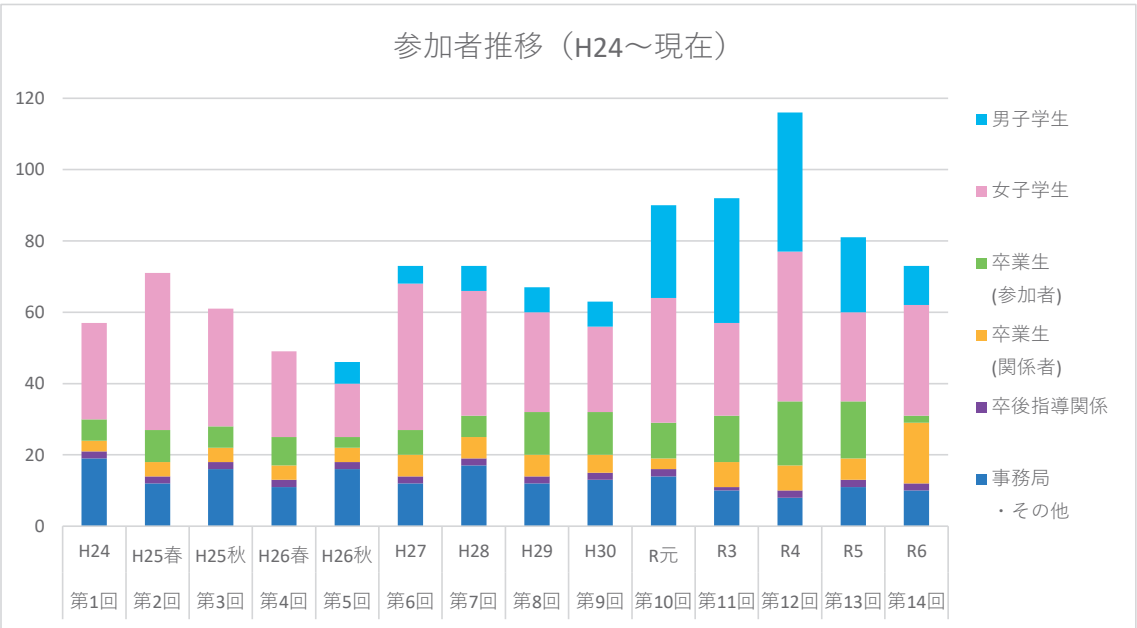
学生	42	（男子11名、女子31名）
卒業生	19	（参加者2名、関係者17名）
関係者	12	（卒後指導関係2名、事務局10名）
合計	73	

参加者推移（H24年度～現在）

開催実績

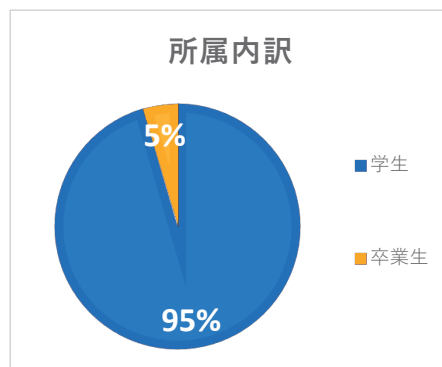
参加者内訳

開催回数	年度	男子学生	女子学生	卒業生 (参加者)	卒業生 (関係者)	卒後指導関係	事務局 ・その他	合計
第1回	H24	0	27	6	3	2	19	57
第2回	H25春	0	44	9	4	2	12	71
第3回	H25秋	0	33	6	4	2	16	61
第4回	H26春	0	24	8	4	2	11	49
第5回	H26秋	6	15	3	4	2	16	46
第6回	H27	5	41	7	6	2	12	73
第7回	H28	7	35	6	6	2	17	73
第8回	H29	7	28	12	6	2	12	67
第9回	H30	7	24	12	5	2	13	63
第10回	R元	26	35	10	3	2	14	90
第11回	R3	35	26	13	7	1	10	92
第12回	R4	39	42	18	7	2	8	116
第13回	R5	21	25	16	6	2	11	81
第14回	R6	11	31	2	17	2	10	73



アンケート調査対象者（※関係者、事務局を除いた参加者）

	男性（男子）	女性（女子）	合計
学生	11	31	42
卒業生	1	1	2
合計	12	32	44

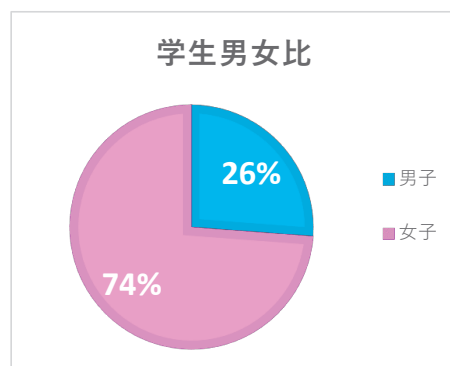


アンケート回収率

	男性（男子）	女性（女子）	合計	回収率
学生	11	31	42	100%
卒業生	1	1	2	100%
合計	12	32	44	100%

【学生】学年別内訳

	男子	女子	合計
6年	2	5	7
5年	3	6	9
4年	2	10	12
3年	2	5	7
2年	0	2	2
1年	2	3	5
合計	11	31	42



1. このような会は必要だと思いますか。

必要	38
どちらかと言えば必要	5
どちらかと言えば不要	0
不要	0
わからない	1
合計	44

【学生のみ】

必要	37
どちらかと言えば必要	5
どちらかと言えば不要	0
不要	0
わからない	0
合計	42

2. 都道府県ごとに学生と卒業生の交流会があったほうがよいと思いますか。

そう思う	36
どちらかと言えばそう思う	8
どちらかと言えばそう思わない	0
そう思わない	0
合計	44

【学生のみ】

そう思う	35
どちらかと言えばそう思う	7
どちらかと言えばそう思わない	0
そう思わない	0
合計	42

3. キャリアに関する授業があればよいと思いますか。

そう思う	33
どちらかと言えばそう思う	9
どちらかと言えばそう思わない	2
そう思わない	1
	45

【学生のみ】

そう思う	31
どちらかと言えばそう思う	9
どちらかと言えばそう思わない	1
そう思わない	1
	42

4. 学生や卒業生へのキャリアに関する相談窓口があるのを知っていますか。

はい	26
いいえ	18
	44

【学生のみ】

はい	25
いいえ	17
	42

○窓口を具体的に知っていれば教えてください。

【学生の回答】

- ・ J-PASS（4名が回答）
- ・ 地域医療推進課（5名が回答）
- ・ 県人会の卒業生（2名が回答）
- ・ 卒後指導委員会（2名が回答）
- ・ 卒後指導部
- ・ 学生生活支援センター
- ・ 卒後指導課
- ・ 教育指導センター

【卒業生の回答】

- ・ J-PASS

5. 今回の会をどのようにして知りましたか。

ポスター	13
周りからの誘い	23
メール	7
その他	1
	44

【学生のみ】

ポスター	13
周りからの誘い	23
メール	6
その他	0
	42

6. 今回の会に参加しようと思った理由は何ですか。（最も強く当てはまるものを一つ選んでください。）

テーマ	13
講演者の先生	14
チューターの先生	15
その他	2
	44

【学生のみ】

テーマ	12
講演者の先生	14
チューターの先生	15
その他	1
	42

○その他

【卒業生の回答】

- ・ 同級生がいたから

8. 次回も参加したいと思いますか。

思う	40
思わない	1
わからない	3
	44

【学生のみ】

思う	38
思わない	1
わからない	3
	42

Ⅲ. 卒後ワークライフバランスについて考える会 J-PASS ブロック担当会議

1. 開催概要

- 概 要 「卒後ワークライフバランスについて考える会 2024 年度 J-PASS ブロック担当
会議」
- 目 的 大学及び各ブロックでの取り組みに関する情報を共有し、現在の問題点を把握し、卒業生女性医師支援を充実させていく過程での基礎を築く。
- 開催日 令和6年8月23日（金）
- 会 場 （現 地）ビジョンセンター東京駅前 703号室
（オンライン）Web会議システム「Zoom」
※現地会場とオンライン会場を併用したハイブリッド開催
- 参加者 19名（卒業生7名、関係者12名）
- 主 催 卒後指導委員会（地域医療推進課）
- 協力者 石川 鎮清（卒後指導委員会女性医師支援担当）
白石 裕子（卒後指導委員会女性医師支援担当）
小島 華林（卒後指導委員会女性医師支援担当）
山本さやか（卒後指導委員会女性医師支援担当）
中村香代子（卒後指導委員会女性医師支援担当）
山本 智美（女性医師支援ブロック担当）
新井 由季（女性医師支援ブロック担当）
牧野 伸子（女性医師支援ブロック担当）
松原 優里（女性医師支援ブロック担当）
横谷 倫世（女性医師支援ブロック担当）
十枝めぐみ（女性医師支援ブロック担当）
定金 敦子（女性医師支援ブロック担当）

2. 次第

日 時：令和6年8月23日（金）13：00～15：00

場 所：ビジョンセンター東京駅前 703号室

※Web会議システム「Zoom」を併用したハイブリッド開催

時刻	所要時間	内容	摘要
12：00	60分	集合・受付	
13：00	5分	開会挨拶	小坂 仁 卒後指導委員長
13：05	35分	近況報告 1 ブロック担当者より 2 学内担当教員より 3 J-PASS 活動報告	女性医師支援ブロック担当 女性医師支援担当 発表者 白石 裕子 医師
13：40	5分	休憩 および 写真撮影	
13：45	70分	全体討論 地域での支援を深めるために必要なことは？ ～支援の浸透を目指して～	議事進行 小島 華林 医師
		まとめ	石川 鎮清 医師
14：55	5分	閉会挨拶	山本 英紀 卒後指導部長



3. 開催内容

開会挨拶

小坂 仁 卒後指導委員長

本日はお忙しい中ご参加いただき感謝申し上げます。平成 25 年から始まった本会も、今回で 12 回目を迎えた。今年度入学した女子学生は 44 名で、医学部全体における女子学生の割合も 3 割を超え、年々増加傾向にある。今後さらに女性卒業医師が増加する中で、地域における支援網の構築等が重要となり、女性医師支援ブロック担当の存在が大きくなることと思う。今年度は昨年度に引き続き、東京の会場を現地としたハイブリッド形式での開催としている。卒業生が各地でご活躍されている本学において、リモート形式という連絡ツールは非常に利点が多いと感じている。コロナ禍で受けた恩恵を活かしながら、今後の支援活動を行っていきたいと考えている。昨年度の会議では、支援活動を地域へと広めるための取り組みについてご意見をいただいた。今回も、支援を卒業生に届け、浸透させるための周知方法について、皆さまからの貴重なご意見をいただきたい。

近況報告

【ブロック担当からの近況報告】

〈ワークについて〉

- ・ 昨年度までは在宅での看取りが多かったが、今年度は有料老人ホームでの看取りが多い。在宅医療も少しずつ形が変わってきているのだと思う。
- ・ 自治医大や地元大学の学生の実習を受け入れており、刺激をもらっている。
- ・ 所属する医局への入局者が減少しており、業務の体制を変更する必要性が生じている。
- ・ 県庁との兼任になり、義務年限内卒業生の勤務調整や面談も担当することになった。

〈ライフについて〉

- ・ 子育てが一段落し、犬を飼い始めた。犬を連れて地域のイベントにも参加している。
- ・ 子どもが大きくなり、気がついたら家に自分だけという時間ができた。

〈ブロック担当として〉

- ・ 週に 1 度、義務年限内の派遣先の病院で外勤を行うことになった。顔の見える関係を作り、相談を受けやすい体制作りにつながりたい。
- ・ 出身ではない都道府県で勤務しているが、勤務地の県人会にも参加している。連絡先の交換方法など、若い先生方とギャップを感じる。J-PASS の活動においても、若い先生方との考え方の違いを考慮しながら活動できたらと思う。

- ・ ブロック担当に就任し、学生時代から知っている後輩に連絡を送ってみた。義務年限内の卒業生ともつながりを作れたらと思う。

【学内からの近況報告】

〈ワークについて〉

- ・ 対面での学生との関わりが増えたが、コロナ禍前と同様のかかわり方ではないと感じる。
- ・ 学会や研究会に参加した際に、30～40期代の先生方と出会った。それぞれの都道府県で重要な立場に立っていて、刺激をもらった。
- ・ 病棟医長となった。スタッフにとって働きやすい職場づくりが一番の課題である。

〈ライフについて〉

- ・ 同期の同窓会に参加した。「自治医大って良いな」と思った。
- ・ 子どもが遠方に通っているため、送迎とお弁当作りに一苦勞している。
- ・ 義務年限内の卒業生と ZOOM や LINE で話す機会があった。

【J-PASS 活動報告】

白石 裕子医師（島根県17期 女性医師支援担当）

全体討論

【テーマ】

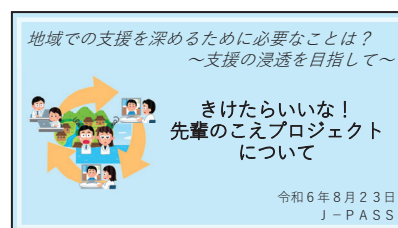
地域での支援を深めるために必要なことは？ ～支援の浸透を目指して～

【議事進行】

小島 華林 医師（青森県24期 女性医師支援担当）

【きけたらいいな！先輩のこえプロジェクトについて】

山本さやか 医師（宮城県25期 女性医師支援担当）



「きけたらいいな！先輩のこえプロジェクト」が開始され、効果的な周知方法について検討し、様々な方法で反復的・継続的に周知活動を行ってきた。しかしながら、現時点で卒業生からの応募は無く、大学や関係者からの声掛けでの開催のみとなっている。卒業生に活動を知ってもらうために、新たな周知活動を行いたいと思う。1つ目は、チラシの作成である。県人会などの卒業生が集まる機会に配布し、卒業生の目に触れる回数が増えることが目的である。2つ目は、同窓会報への掲載である。全卒業生が紙媒体でも電子媒体でも閲覧が可能であるため、登録の有無に関わらず、周知をすることが可能である。以上の2つの案について、先生方からご意見をいただければと思う。

【意見交換】

横谷 倫世 医師（奈良県21期）

県人会の集まりなどでチラシを配布することで、周知につながると思う。とても良いと思った。

山本 智美 医師（北海道33期）

チラシ作成の話が出る前に、香川県人会の集まりの際に既存の資料を配布したことがある。義務内の先生の出席率や、義務内派遣先で勤務している先生が出席しているかも重要であると思う。

牧野 伸子 医師（大阪府10期）

案に記載されている「口外しない内容」は相談内容のみなのか、出身都道府県や卒業期なども口外せずにこのプロジェクトに参加したことが他者にわからないようにするのか、口外しない範囲を決めたほうが相談する側が安心できると思う。

小島 華林 医師（青森県24期）

個人情報の取り扱いに関する文言は決めたほうが良いと思う。

松原 優里 医師（京都府28期）

「参加者のこえ」をチラシ内で見ることができれば良いと思う。

牧野 伸子 医師

自治医大の卒業生は、「自分のため」ではなく「後輩のため」に動く方が多いように感じる。「あなたを助けますよ」というメッセージのみでなく、「あなたと一緒に後輩も助けましょう」というメッセージがどこかに見えることで、自分の相談が後輩のために道を開くきっかけになるかもしれないと考えるのではないかと思います。そうすると、応募のハードルも下がるのではないかと思います。

小島 華林 医師

タイトルでは「きけたらいいな！先輩のこえ」としているが、実際には後輩のこえもききたいと思っている。大学としての卒業生支援でもあるが、先輩が後輩のこえをききたいと思っているということを伝えられたら良いのではないかな。

定金 敦子 医師（福岡県22期）

職場の若手職員を見ていると、自分から積極的に手を挙げたり意見を発言したりする人が少ないと思っている。参加したいと思っていても、手を挙げづらいという人もいるかもしれない。対象者を絞って、試験的に卒後3～4、8～9年目を対象として開催するのも良いと思う。

白石 裕子 医師（島根県 17 期）

各都道府県において、30 期代くらいの先生方が若手医師のまとめ役となって、後輩たちのことを考えるようになっているケースが多々あると聞く。そういった方々もワークライフバランスや何をしたらよいかを悩んでいる様子なので、そういった方々を対象にして声をきいたらどうか。これまでの J-PASS の活動で綴ってきたメッセージのどこかにヒントがあるかもしれない。その方たちとのミーティングをプロジェクトの一環として行うことができれば良いのではないかと思う。プロジェクトの実績にもなり、周知にもつながると思う。

牧野 伸子 医師

白石先生のご提案に賛成である。各都道府県でまとめ役をされているような先生方は様々な場所でご講演されていて、プレゼン資料も整っているのではないかと思う。準備いただくためのご負担が少なくご参加いただけるのではと思う。

小島 華林 医師

プロジェクトの名称に「先輩のこえ」だけでなく、「後輩のこえ」も追加してはどうか。また、今までは義務内の先生方にメールで周知をしていたが、手上げがないのが現状である。掲載による周知活動もちろん良いが、声掛けしていくことも考えていかなければならないと思う。

十枝 めぐみ 医師（香川県 13 期）

勤務する診療所でイベントを開催する場合には、「得られた個人情報報は本事業以外には利用しません」と明記し、イベント終了後には破棄しないといけないことになっている。そういった内容を記載しておけば、「口外しません」とまで言わなくても、大きな問題にはならないのではないかと思う。「先輩のこえ」については、最近卒業したばかりの先生方とは年が離れているため、本当に自分の話を聞きたいのかなと思うが、その間の年代である 30 期代の先生方を対象とすることで、参加者の幅が広がって良いと思った。また、タイトルに「後輩のこえ」と追加するご意見には賛成である。

石川 鎮清 先生（福岡県 12 期）

個人情報に関する記載は、十枝先生に賛成である。様々な学会でワークライフバランスについて共有する機会が増えてきたことからすると、学会等の何らかの形で卒業生の声を拾うということが出てくると思う。本プロジェクトで使う以外にも、学会での発表で使わせていただきたい場面があるかもしれない。個人情報が出ることはないが、コメントの一部は使わせてもらおう、といった一言はあってもよいのではないかと思う。

小島 華林 医師

個人が特定されない、匿名のものであれば個人情報は守られていると言えると思う。

白石 裕子 医師

「コメントの一部は、許可をいただいたうえで利用させていただくことがあります。そのひとことがだれかを勇気づけるかもしれません。」といったメッセージがあると良いのではないと思う。

新井 由季 医師（栃木県25期）

開催することとなった場合には、参加する先輩卒業生が決まり次第「今回は〇〇先生が参加されます」というふうにお知らせした方が、参加する側は助かるかもしれない。

牧野 伸子 医師

チラシ冒頭の「自分の進むべき道に迷ったり、つまずいたり、人生の「選択」に悩むことがあると思います。」という部分に、「悩んでいる人の相談に乗らなければならないときがあると思います。」とすることで、相談に対してどのような言葉を返したら良いか迷っている人も対象者であると伝えることができ、かなり幅が増えると思う。白石先生にご提案いただいた30期代の先生方も、この一言によって対象者としてとすることができると思う。

中村 香代子 医師（埼玉県35期）

各都道府県のキーパーソンの先生に声をかける案に賛成である。募集も同様に、個人での申し込みのみでなく、複数人でも申し込めることとするのも良いと思う。30期代から広がることもあるとのことだったので、そういった先生方にお声掛けし、ご了承をいただけたら「今回はゲストとして〇〇先生が参加します！」と周知し、ゲストの先生からも周囲の方に声をかけていただくという流れで回数を重ねて進めていくのも良いと思った。

山本 さやか 医師（宮城県25期）

プロジェクトの名称について、メインタイトルを現在のタイトルとし、サブタイトルとして「きかせてほしい後輩のこえ」とするのはどうか。

白石 裕子 医師

日程の記載について、すでに予定されている日時以外でも調整可能とするのであれば、日程調整も可能な旨を記載するとよいと思った。また、「J-PASS」の名称について（Jichi Postgraduate self-Affirmation Support System）も記載するのはどうか。

十枝 めぐみ 医師

同窓会報へは、チラシをそのまま掲載したらよいと思う。

山本 智美 医師

卒業生の先生に自分が対象であると認識してもらうために、「自治医科大学」の表記が目立つ位置にあると良いと思う。

小島 華林 医師

チラシの一番上に「自治医科大学卒業生のみなさまへ」とあると良いと思う。また、大学のシンボルマークもつけたい。

皆様から大変貴重なご意見をいただき御礼申し上げます。チラシはこれで完成としたい。タイトルは、現在のタイトルにサブタイトルをつけることで、後輩のこえを聞きたいと思っていることが伝われば良いと思った。また、同窓会報へはチラシをそのまま掲載することとしたい。

松原 優里 医師

後輩と話す機会があり、このプロジェクトについて話したところ、知らないとのことだった。顔もわからない先生に対して自分から話を持ち掛けていくということにハードルを感じていた。複数人での申し込みは緊張をほぐすことができ、ハードルを下げるために良いアイデアだと思った。学生時代は全寮制ということもあってつながりが強いが、卒業すると出身都道府県に戻るために横のつながりが薄れてしまい、誰に相談したら良いのかわからなかったが、なんとか9年間過ごすことができたという人がある。義務年限を履行する中で困ったことのない人はいなくて、各都道府県に相談できるメンターのような人がいれば、顔を見ることができて安心できるため、理想形なのだと思う。

小島 華林 医師

現在、9名の先生方にブロック担当をお願いしているが、実際には馴染みのない都道府県も担当いただいていることと思う。裾野を広げることは次のステージに進むために非常に重要であると思う。47都道府県に男女関係なく1～2名ずつお願いすると良いなとは思っている。

牧野 伸子 医師

理想ではあるが、都道府県によって大きな差があるのが現実で、やりやすいところとやりにくいところがある。結果的に全都道府県に広がった、というかたちしかできないのではないかと思う。しかし、振り返ってみると、この取り組みの当初はご講演をお願いした際に難色を示されることが多く、苦勞して講演にこぎつけたという歴史があるが、最近はJ-PASSのご講演をお願いした際に、嬉しいですよと言っただけのことでも多くなった。このプロジェクトも同様の反応をいただければ良いなと思う。

小島 華林 医師

今回の目標としていたチラシおよび同窓会報掲載内容についてクリアできたと思う。来年度のブロック会議までにチラシを基にこちらからお声掛けしていき、開催実績を増やしていければよいと思う。

小坂 仁 卒後指導委員長

チラシ作成や今後の支援の形について沢山のご意見をいただき御礼申し上げます。女性医師支援ブログを利用して周知を広めていければよいと思う。

山本 英紀 卒後指導部長

素晴らしい議論をしていただいたと思う。自分だけのための相談ではなく、後輩のためにもなる相談というご意見は、全くもってその通りだと思う。先輩が話をするだけではなく、後輩の声をきくことも非常に重要だと思いながら話を聞いていた。このプロジェクトが他の何かとも連動していくと良いと思った。流れをつくりつつ、無理せず進めていくことも大切だと思いながら聞いていた。

横谷 倫世 医師

すごく「きかせてほしいみんなのこえ」だなと思った。自分自身、昔と今で悩みも変わっていて、いろいろな方々とお話しできたら良いなと思った。

中村 香代子 医師

非常に具体的な来年に向けた話をするのができ、楽しみだなと思った。

まとめ

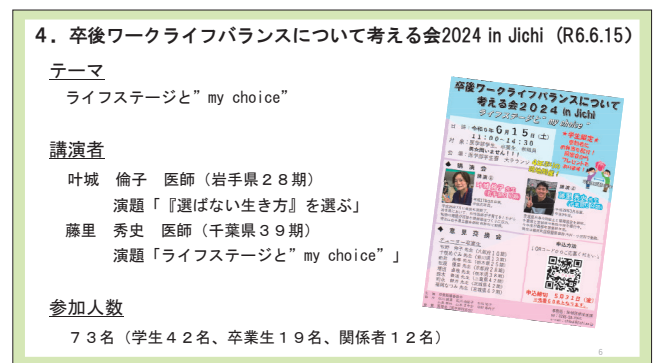
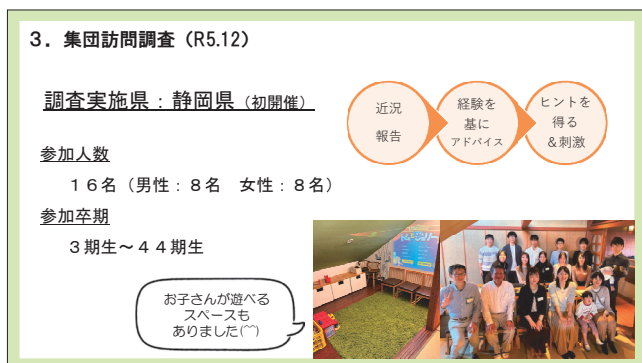
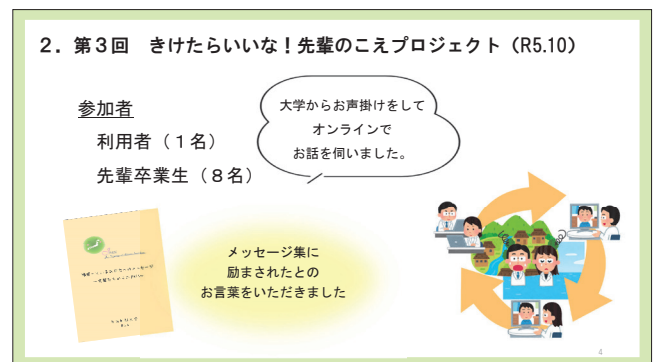
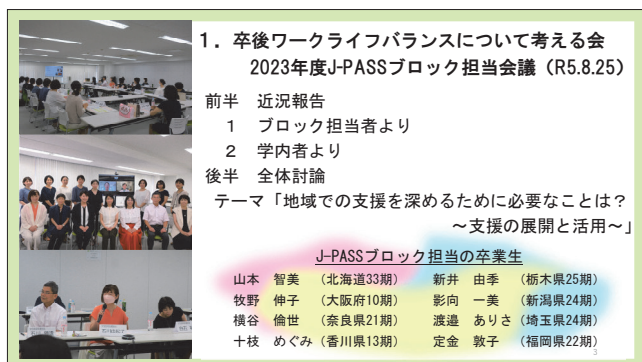
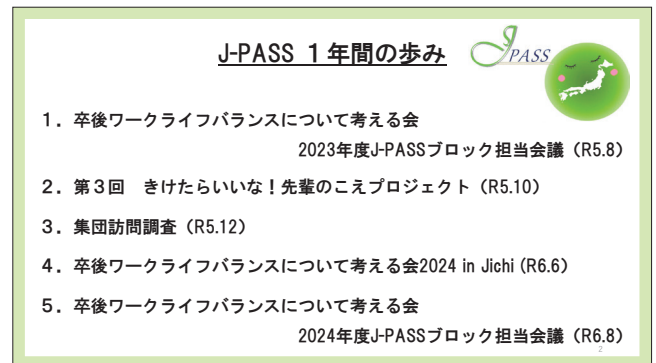
石川 鎮清 医師

チラシが完成し、大きな前進となったと思う。先生方から多くのご意見をいただき、納得のできるものが仕上がったと感じている。ぜひ県人会の場などで配布して、参加者が応募しやすい雰囲気が生まれてほしい。また、個人でなく複数人での申し込みができるということもとても良いと思う。先輩が後輩を誘って参加したり、悩みを聞いた人が一緒に参加したりと、色々なバージョンがあるなと思いながら聞いていた。今後、進んでいくことが期待できる話し合いができたのではないかなと思う。

閉会挨拶

山本 英紀 卒後指導部長

本日はお忙しい中お集まりいただき、貴重なご意見をいただくことができ御礼申し上げます。社会に存在する組織に共通して言えることだが、このような会に参加している特定の方々のご負担が大きくなりすぎることが、継続することのできない要因だと感じている。良い形で続けていければと思う。引き続きよろしくお願い申し上げます。



地域での支援を深めるために必要なことは？
～支援の浸透を目指して～



きけたらいいな！
先輩のこえプロジェクト
について

令和6年8月23日
J-PASS

○これまでの経緯



令和4年度 J-PASSブロック担当会議

プロジェクトの発足！

地域で勤務する卒業生が悩んだり迷ったりした際、
複数の先輩と話す機会があれば、視野が広がることあるのではないかな？

令和5年度 J-PASSブロック担当会議

効果的な周知方法について検討！

様々な媒体で、繰り返し周知活動を行うことが重要。

○現在の周知活動

メールマガジンでの
配信（毎月）

女性医師支援
News Letter
（2か月に1回）

ブログ掲載

卒業生あてメール
（義務内医師に限定）

現時点での開催回数は・・・

令和4年12月～令和6年7月において…

3回

1回目

- ・大学からの声掛け
- ・試験的な開催

2回目

- ・ブロック担当の先生からの紹介

3回目

- ・大学からの声掛け
- ・個別聞き取り調査との併催

聞いたことないです…

現在、卒業生の間における認知度は

低い



存在を知りませんでした。
参加したい卒業生は
いると思います。

○卒業生へ支援を届けるために

アプローチ方法を増やす必要があるのでは？

案①
チラシの作成

- ✓ 県人会等の対面のイベントで手軽に周知できる。
- ✓ 電子媒体と紙媒体の併用でより目につきやすくなる。

案②
同窓会報への掲載

- ✓ 対面のイベントへ参加できない先生にも周知が可能。
- ✓ 幅広い年代の先生に周知できる。



自治医科大学医学部卒業生のみなさまへ

きけたらいいな！



先輩のこえプロジェクト

～きかせてほしい後輩のこえ～

自分の進むべき道に迷ったり、つまずいたり、
人生の「選択」に悩むことがあると思います。
悩める後輩からアドバイスを求められることも
あるかもしれません。
そんなとき、複数の先輩卒業生と一緒に
オンラインでお話してみませんか？

参加者の声

異なる価値観に触れたことで
様々な生き方やキャリアを
知ることができた

先輩と話すからこそ
聞いたことがあった

出身や卒業期の異なる先輩と一緒にお話することで、
新たな発見があるかもしれません。
得られた個人情報、本プロジェクトの
目的以外で使用しません。
男性、女性問わず、
参加申し込みをお待ちしております！
グループでの参加も可能です。

家庭・勤務・育児・
キャリア（専門医や学位）など…
先輩卒業生のお話を
聞いてみませんか？

申込方法

Google Forms

(<https://forms.gle/RaGnQ9mC1Ro2Ycqt6>)

よりお申込みください。

※開催日程やメンバーはGoogle Formsからご確認ください。

※参加締切は開催日の2週間前とさせていただきます。



いただいたコメントは、
個人の特定ができない形で
悩んでいる卒業生のために
使わせて頂く場合があります。

問い合わせ先

自治医科大学 地域医療推進課 卒後指導係

自治医科大学女性医師支援（J-PASS）

TEL : 0285-58-7055 E-mail : chisui@jichi.ac.jp



Jichi Postgraduate self-Affirmation Support System (J-PASS)

IV. 学生懇談会

1. 開催概要

- 概 要 「学生懇談会～卒業生と共に地域におけるキャリアデザインを描こう！」
茨城県42期 町永 幹月 医師
三重県42期 鈴木 貴道 医師
- 目 的 出身県の卒業生と在学中から交流を深めると共に、ワークライフバランス
及びキャリアについて話を伺い、卒後の地域勤務への理解を深める。
- 開 催 日 令和6年12月3日（火）17時00分～18時00分
- 会 場 医学部教育・研究棟1階 大教室3
- 参 加 者 29名（卒業生2名、在学生22名、関係者5名）
- 主 催 卒後指導委員会（地域医療推進課）
- 協 力 者 山本 英紀（卒後指導部長）
石川 鎮清（卒後指導委員会女性医師支援担当）
石川由紀子（卒後指導委員会女性医師支援担当）
小島 華林（卒後指導委員会女性医師支援担当）
山本さやか（卒後指導委員会女性医師支援担当）
医学部学生



2. 開催内容

次第スケジュール

- (1) 開会挨拶
- (2) 出席者自己紹介（名前・学年・部活等）
- (3) 義務年限中のお話
- (4) フリートーク
- (5) 写真撮影

令和6年12月3日（火）に、本学附属病院乳腺科の町永幹月先生（茨城県42期）と救急科の鈴木貴道先生（三重県42期）のご夫妻にご協力いただき、茨城県と三重県出身の学生と小規模懇談会を行いました。

はじめに、先生方からこれまでの勤務や現在専攻している診療科に決めた理由などについてスライドを用いてお話しいただき、その後は質疑応答の時間として、学生からの質問に率直にお答えいただきました。

現在、義務年限を履行されている鈴木先生ご夫妻の具体的なお話は、学生が卒業後を考えるにあたって非常に参考になりました。



V. きけたらいいな！先輩のこえプロジェクト
～きかせてほしい後輩のこえ～

J-PASS では、自分の進むべき道に迷った際、複数の先輩卒業生と一緒に話しをすることで様々なキャリアやワークライフバランスの形を知ってもらい、自分の中で選択肢の幅を広げていただくことを目的に「きけたらいいな！先輩のこえプロジェクト～きかせてほしい後輩のこえ～」を開催しております。

J-PASS のならではの「丁寧な場」を提供し、少しでもみなさまの心の負担が軽くなるきっかけになればと考えております。少しでも興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひご連絡ください。

1. 開催概要

概 要 「きけたらいいな！先輩のこえプロジェクト ～きかせてほしい後輩のこえ～」

目 的 悩みを抱える卒業生が先輩卒業生と交流をすることで、自分自身の力で悩みを解決するための情報を得てもらうこと。

開催方法 ウェブ会議システム「Zoom」によるオンライン開催

参加者 4～5名（応募者1名、先輩卒業生3～4名）

主 催 卒後指導委員会（地域医療推進課）

参加者のこえ



あの時こうしておけばよかった、
こういう時は誰に頼っていたかなど、
具体的なお話が聞けてよかった。

様々なアドバイスをいただき、
今後のビジョンが少しずつ見えて、
課題も明らかになった。

自分には相談できる人が沢山いて
1人で悩みを抱えることはないのだと
気持ちが前向きになった。

<2024 年度体制>

女性医師支援担当教員

石川 鎮清（福岡県 12 期）：情報センター
石川由紀子（静岡県 17 期）：地域医療学センター総合診療部門
白石 裕子（島根県 17 期）：地域医療学センター総合診療部門
小島 華林（青森県 24 期）：とちぎ子ども医療センター小児科学
山本さやか（宮城県 25 期）：臨床検査医学
中村香代子（埼玉県 35 期）：総合診療内科

女性医師支援ブロック担当

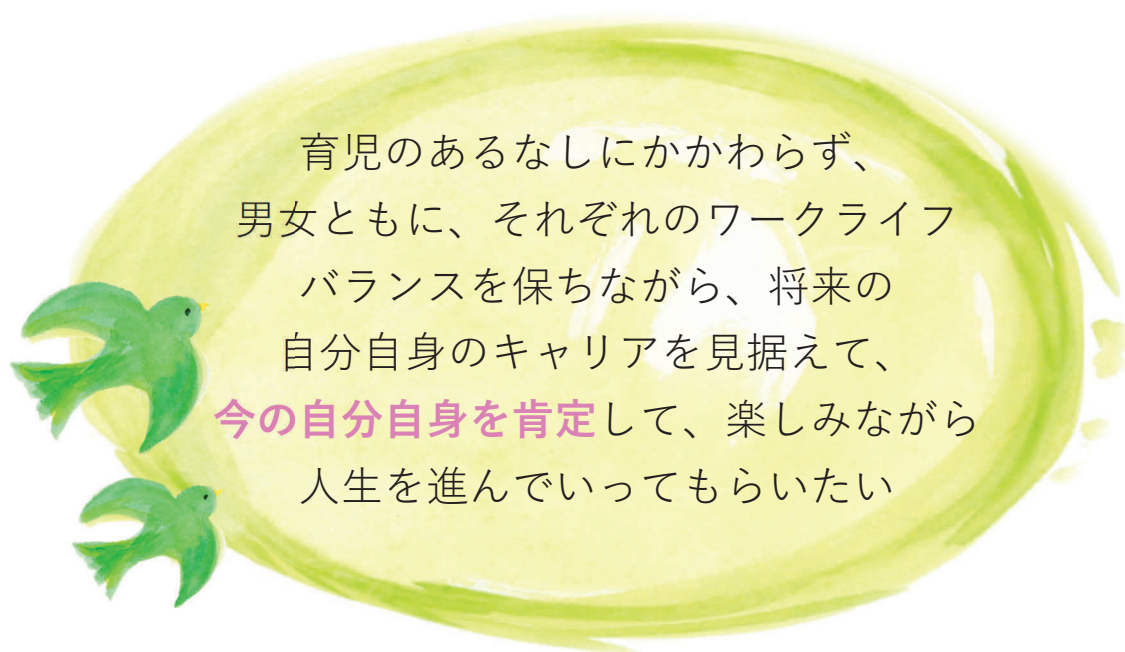
山本 智美（北海道 33 期）：北海道・東北（北）ブロック
新井 由季（栃木県 25 期）：東北（南）・関東（北）ブロック
牧野 伸子（大阪府 10 期）：関東（南）ブロック
影向 一美（新潟県 24 期）：中部ブロック
松原 優里（京都府 28 期）：近畿（北）ブロック
横谷 倫世（奈良県 21 期）：近畿（南）ブロック
渡邊ありさ（埼玉県 24 期）：中国ブロック
十枝めぐみ（香川県 13 期）：四国ブロック
定金 敦子（福岡県 22 期）：九州ブロック

ご意見・ご感想などございましたら、
地域医療推進課までお願いいたします。

地域医療推進課・卒後指導係
e-mail:chisui@jichi.ac.jp



Jichi Post graduate self-Affirmation Support System



育児のあるなしにかかわらず、
男女ともに、それぞれのワークライフ
バランスを保ちながら、将来の
自分自身のキャリアを見据えて、
今の自分自身を肯定して、楽しみながら
人生を進んでいてもらいたい

令和7年3月1日発行

発行元 自治医科大学地域医療推進課
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
TEL : 0285-58-7055
FAX : 0285-44-6274
E-mail : chisui@jichi.ac.jp
URL : <https://www.jichi.ac.jp/chisuika/>